

1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

（ ）月 日 曜日

心引かれる 白谷雲水峡

六年 細川 粹楽

水てきがついてる水がみどりのつけ。ぼくは、水てきを光るつけを見て心を引かれた。そして屋久杉のこいつの堂堂とした姿におどろいた。

ぼくは、山がそんを好きではなかつた。だがある日、白谷雲水峡に行くことになった。けやいやながう行くぼくに、父さんは言つた。

「粹楽、山にはきれいなつげや、大きな屋久杉があるから、一回は見たほうがいいぞい。」
ぼくは、その言葉を聞いて山に行きたくなつた。

山に行、左ぼくは、屋久島の美しい自然を見た。その自然は、ものけ姫で見たのより3倍いや10倍美しかつた。それだけでは変な虫、きれいな虫、タコガエルなど植物以外にもおもしろい生き物がいた。

ぼくは、屋久島の山は、植物だけではなく、

(不許複製)

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。
4 書き終つたら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。



No.

- 1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。
- 2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

（ ）月 日 曜日

二人虫、両性類も。おもしろいことをした。
 ぼくは、白谷雲水峽に行、それから山へのい
 んしようが変わって、山が好きになった。
 ぼくは、この白谷雲水峽の美しさに、心
 を引かれ好きになった。

(不許複製)

- 3 詩はどの行も二ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。
- 4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

